

# “超多収飼料米が畜産・大パニックを防ぐ” シンポジウムのご案内

・日 時 2008年11月28日(金) 午後1時半～5時

・場 所 エデュカス東京

(千代田区二番町12-1 JR四谷駅・市ヶ谷駅から徒歩7分、03(5210)3511、裏面の案内図をご参照下さい。)

## ●主催

畜産・大パニック阻止実行委員会 共同代表：上原公子、清水鳩子

## ●プログラム

1、飼料米生産を支援している生協からの報告⇒生活クラブ事業連合生協連合会（庄内みどり農協）、パルシステム生協連合会、東都生活協同組合、コープとうきょう（コープネット事業連合）\*コープとうきょうは文書での報告。

2、特別報告、「超多収飼料米が日本の畜産と水田農業を救う」  
⇒東京農業大学農学部畜産マネジメント研究室、信岡誠治博士

3、シンポジウムと全体討論

△パネラー

- ・畜産・酪農生産者⇒全国養鶏経営者会議、石澤直志会長及び畜産農民全国協議会代表
- ・超多収飼料米を耕畜連携で生産している稲作生産者⇒庄内みどり農協の飼料米生産指導責任者
- ・消費者団体代表⇒全国消費者団体連絡会、蓮尾隆子運営委員
- ・飼料米生産支援の生協代表⇒生活クラブ事業連合生協連合会、加藤好一会長
- ・超多収飼料米の実践的研究者⇒東京農業大学畜産マネジメント研究室、信岡誠治博士
- ・コーディネーター⇒自然エネルギー研究センター、若狭良治氏

## ●シンポジウムの焦点

1、超多収飼料米が、減反水田115万haの80%の面積で本格生産されれば飼料用コーンのほぼ75%に相当し、食料自給率が4%向上します。

2、飼料用コーンの輸入代金4,500億円が毎年地域農業に還元し、農村地域の再生に確実に貢献します。'08年度の飼料米作付は、生協の支援等により1,600haに広がっています。一層の広がりが期待されます。

3、家畜の堆肥で育てた飼料用稲を給餌する稲作農家と酪農家との循環活動を支援する「耕畜連携水田活用対策事業」が牛・豚・鶏全蓄種に適用されれば、循環型地域農業と飼料米の生産性向上が同時に進みます。

4、しかし配合飼料価格は、この10月から更に1トン当2,800円値上げされ、畜産・酪農家の経営は一層厳しくなります。⇒消費者が大幅値上げ分を負担できれば問題は無いのですが……飼料暴騰分の政府による全額補填4,000億円の緊急支出こそ持続的な農村地域経済の振興対策としても実に効果的な対策となるのです。

◎水田増反政策への転換や今大問題となっている汚染米の根源であるMA米輸入政策の即時廃止についても討論します

\*内容が一部変更になる場合があります。

\*参加費は500円（資料代・会場費）です。

⇒お問い合わせ先：042-676-5363（FAX兼）実行委員会連絡窓口

（遠藤和生）